

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句 : はじめに神は天地を創造された。(創世記 1章1節)

保育目標 : 0歳児	・水や砂・泥などに触れ、夏の遊びを楽しむ。
1歳児	・自分の思いを周りの大人に受けとめられて、自分からやってみようとする。
2歳児	・夏ならではの遊びを楽しみ、やってみたいことをみつける。
3歳児	・自分の思いを保育者や身近な友だちに態度やことばで伝えようとする。
4歳児	・遊びの中で表現することを楽しむ。夏を感じて心身を開放して遊ぶ。
5歳児	・遊びの中で探求することや交わることを心ゆくまで楽しむ。夏を感じて心身を開放して遊ぶ。
祈りの時に共にいてくださるイエスさまを感じて「アーメン」と声を合わせる。	

晴れの日には水遊び、雨の日にはレインコートを着て雨遊びと自然の恵みを豊かに感じて過ごす子どもたちです。一緒になって泥んこに手足を突っ込んだり、タオルをかぶって雨の中を歩いてみたりしていると、いつの間にか私も開放感を感じ、なんだかすっきり。「だって楽しいから。」となかなかやめない子どもたちの気持ちがよく分かります。

先日園庭でたらいに水を溜めて遊んでいると、お部屋から友達と一緒にやってきた年少組のG君。たらいの側にしゃがみ込み遊び始めようとしたところへ「そろそろお部屋に集まるよ」と担任の先生から声を掛けられました。一瞬ふと手を止め私の顔を見た後、視線を戻し「もっと遊ぶ。」と真剣でまた期待を持ったまなざしで言いました。その表しを受け止めた担任の先生は「終わったらお部屋で待っているからね」とG君に伝え、一足先にお部屋へ。そのやり取りを見ていた私は「送っていきますね。」とG君の遊びの様子を見つめながら担任の先生を見送りました。

何気ない保育のひとつですが、私はG君が「もっと遊ぶ。」と言ったことがとても嬉しく、またこれまでの歩みを確かに感じさせてくれるものとなりました。入園当初からしばらくの間お家の方と共に園生活を送っていたG君。クラスの入り口で涙したり、緊張した面持ちでお家の方と園内を巡って遊びを探したりと人一倍不安を感じていたようでした。そのような日々を送りながら、段々とクラスを自分の居場所と感じ、担任と笑顔でやり取りを交わす姿も見られ始めた頃のことでした。

この時、思ったことに自信を持って表現したG君。きっとこれまでの生活でお家の方に自分の思いを丁寧に汲み取ってもらっていたことをしっかりと感じていたのでしょう。また初めての園生活の場でも不安をしっかりと表現し、受けとめられたこともG君の心の土台になっていたのだと思います。だからこそ、「やりたい」と思って取りかかったことを周囲の状況に左右されず「やる」と選び取ることができたのでしょう。

「もっと遊ぶ。」といったG君の希望に満ちた目。自分のやりたいことを思い切りできる場、それを認めてもらえることへの期待がこもっていたように感じます。これからが楽しみです。

進級や入園から3か月近くが経過し、段々と周囲の環境や状況に慣れてきた「今だからこそ」出会う出来事や姿があるでしょう。また周囲が見え始める今だからこそ感じる不安や戸惑いもきっとあることと思います。G君のように大切にされてきた子どもたちの心持ち、私たち保育者も受けとめる土壌をいつも用意しておかなければと改めて気づかされたひとときでした。私たち保育者は一人ひとりの「育ち」のバトンをお家の方と共に握りながら、保育に携わっていきたいと思います。そして一緒に育ちを喜び、考え合える者でもありたいと思います。どんな小さなことでもぜひお話しください。子どもも大人も神さまが創ってくださった大切な「ひとり」として互いに思い合いながら生活が繰り返されることを願っています。

7月後半からは夏の園生活になりますね。園やご家庭で過ごす夏、まだまだ制限はあるもののそれぞれにとって充実した夏になるようにとお祈りします。

主任 千葉 綾子